

市民公益活動推進助成金事業報告会実施報告

日時：令和元年(2019年)6月15日(土) 13時～17時

場所：とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ「すてっぷホール」

参加人数：48人(うち職員3人)

1. 開会

資料確認・趣旨説明等(司会)

- ・資料確認
- ・報告会の趣旨説明(平成30年度助成金交付団体数、報告会の目的、豊中市市民公益活動基金(とよなか夢基金)及び市民公益活動推進助成金について)
- ・コーディネーター(豊中市市民公益活動推進委員会 助成金審査部会長 やまだゆうこ 山田裕子さん)

挨拶

この助成金は、市民公益活動団体の支援を行うもの。団体の自立的・継続的な発展を支援するものであり、団体には活動を通じて、社会の課題解決へのアクションを起こしていただきたいと思う。また、行政との協働も視野に入れて取組みを進めていただきたい。

本日の報告会は、活動の振り返りや評価を行うことにつながるものである。課題への対応として、取組み方法の仮説をたてて事業の立案をされ、実行されてきたと思うが、その成果はどうだったのか。行政が評価するだけでなく、市民公益活動団体自身も評価していくことが問われている。評価することは、事業の進め方の改善に役立つものであり、みなさんのモチベーションの向上にもつながる。

本日は、成果があったことのみではなく、想定していたとおりにできなかったこと等もお話しいただき、それらを踏まえ、今後の活動展開に役立ててほしい。また、他団体の報告から学んだり、情報交換の場としても活用してもらいたい。それでは、発表を楽しみにしています。



2. 団体からの報告への部会長からのコメント

初動支援コース

・水仙の会

16年間も活動をされているということで、継続は力なり、ということを感じた。継続することで団体の活動が発展しておられる。ボランティア精神だけで続くものではない。仲間を増やしたり、慰問先の施設を増やしていったりし、また、資金的にも訪問先から活動費を得る努力等を行うことで、目的の達成につながっていく。参加型のプログラムを増やしていることも素晴らしい。日本舞踊以外にも、参加者にあわせて活動内容にされていて、工夫しておられると思う。



・NPO法人障がい者・高齢者市民後見STEP

開始されて2年目とのことだが、マネジメントが、しっかりしている。

障害当事者への金銭教育をされているか。→理事の中に、そういった活動のできる方がいて、実施してもらったことがある。⇒（コーディネーター）当事者の方が就労する機会も拡大しているが、一方で、得た収入の使い方等について学ぶ場が必要であり、金銭教育を今後も是非続けて実施してほしい。

障害者就労支援センターや就労移行センターとの連携は？→支援した方を通じたつながりはあるが、まだ一部のみ。⇒（コーディネーター）そういったところへの啓発活動を進めていってほしい。

成年後見に関して相談活動の成果例を示しておられるのは、保護者に対してはたいへん参考となる。成年後見でのトラブルの事前の予防にもつながる。保護者が事前に準備できることは良いこと。是非、啓発先を広げていただきたい。

・特定非営利活動法人空き家サポートセンター

セミナーや講座の参加者には、空き家問題に困っていて参加した人が多いのか。→市のHPに掲載された案内を見て参加された方が多い。関心を持ってもらえるようにテーマ設定に工夫しており、テーマに関心を持った人が参加していると思う。

テーマによっては、空き家問題というよりも、まちづくりへの関心として参加された方もあると思うが、空き家問題に関心を持ってもらえるように誘導しているのか。→参加者は熱心に説明を聞いておられる。

地域のまちづくりに関心を持っている方に、自分の家のことだけではなく、地域の空き家に関心を持ってもらうように進めていくことが大切である。また、住宅確保要配慮者支援の取組みも、活動の幅を広げていくことにつながると思う。今後の活動に期待したい。



・健プロ体操

退院後運動する機会を設けることについて、制度的には漏れており、社会に必要な事業であると思う。

専門職の参加は本職にも生かされ、重要なことであるが、専門職への広がり方はどのような状況か。→協力者の広がり方について、前年度は知り合いに頼んで関わってもらっていた。広がりについては、今年度の課題である。

自宅で体操を行う人のために、体操の方法がわかりやすく書かれた精度の高い資料を作成していただきたい。

地域の人が体操することは、コミュニティづくりにも良いと思う。

デフスポさんとのつながりで、聴覚障害者の方々向けの活動をされたとのことであり、いろいろな団体さんがもっている課題とコラボすることを今後も進めていただきたい。

・視覚障害者の単独白杖歩行外出を応援する会

どれぐらいの情報がHPに掲載されているのか。

→2,500 ぐらい。豊中については20ルートぐらいの情報が掲載されている。

どれぐらいの視覚障害者に周知されているか。

→2018年11月の1か月間のデータでは、豊中市役所へのルートのアクセス数は実績が無かったが、視覚障害者に対応した演劇事業の実施があった門真市の施設に関するアクセス数は100近くあった。需要のあるところ、無いところがあると思う。

今後、視覚障害者へ周知を進めてもらいたい。



・さわる絵本かすみ草

体験講座でメンバーは増えているか。→増えていっている。平日は仕事があり参加が難しいという人が、休日に実施するイベントに参加してくれた。それから、学校や図書館の要望によって、立体地図の作成を進めている。

さわる絵本の必要性を広く周知する為には、実際触れてみないとその良さが伝わらないので、そのような機会を積極的に広めていただきたい。

・デフスポフェスティバル実行委員会

300名が参加された中で、豊中市民の参加はボランティアも含め、どのぐらいあったのか。→明確には把握していないが、豊中からも参加者はあったと思う。

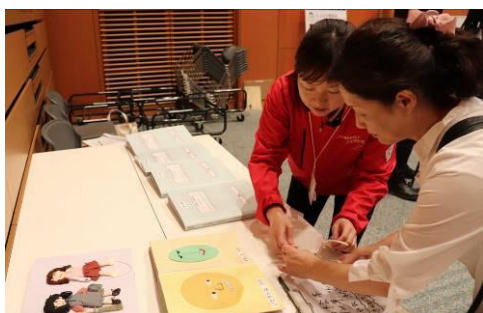
フェスティバルへの参加はできなくても、日常的に聴覚障害のお子さんがスポーツに参加できることも重要だと思うので、日常的にスポーツを通じてふれあうような環境を進めてもらえるよう頑張っていたきたい。



・任意団体 学習支援「未来SS塾」

教える側の方に専門的な知識が必要で、心理学的な面での知識が必要であると思うが、その点はどうか。→講師を務めているのは、私と他に1名で、自分自身は社会福祉士の資格を持っている。受講料を高く設定していないので、費用面でなかなか講師として来てもらいにくい。内閣府からの助成金が今年度交付決定した。場所については、地域の応援もあって、無償で集会施設を借りている。ニーズがある事業であり、是非継続してもらいたい。

(休憩)



さわる絵本かすみ草が作成した絵本を
実際に手に取る参加者

・千里つばめ学習会

社会貢献できる人材を育成している点が特徴であり、講師をして良かった点があれば。→自分自身は教育学部におり、中学生と関わったことや教えることが楽しかった。それ以上に、同じ志を持つ人と関わったことや、社会人講師から学校を卒業して社会に出た後の話を聞け、学生の間から、そういった経験ができたことが良かった。

3年生ぐらいになると就活もあり、継続が難しいのでは。→週1回2時間のみのため、それほど負荷になるような活動にはなっていない。

⇒(コーディネーター)無理なく継続できるということが重要な要素であり、素晴らしいと思う。

生徒数が12名という点で、増やしていくことについて。→夏休み以降ぐらいに、部活を引退した生徒が、入ってくる傾向にある。



・まんぷくほーむ実行委員会

こども食堂というよりは、多世代に参加してもらえる「みんな食堂」にしていくということか?→昨年度も、そういう方向で実施していきたいと思っていたが、なかなか大人の方に来ていただけなかった。最近になって、独居の高齢者の方などが来てくれるようになった。

現在、実行委員会の形態で実施しているが、任意団体に変えていく予定はあるのか。

→任意団体にすることも視野に入りたいと思っている。

継続できるように資金繰りを進めたい。

めざしているものが近い団体から学んでもらい、継続してもらいたい。

場所がわかりにくいとの話を聞いたことがあるが。→新しいパンフレットにはわかりやすい地図を入れている。また、実施時には、近隣に順路の案内を掲示している。

地域の方も巻き込みながら、実施していただきたい。



・ENJOY♡こどもごはん

今年度の課題として、本当に情報が欲しい方へ届ける方法の検討を挙げておられるが、その辺りについて、どのような状況か。→だいぶ集客ができるようになってきた。幼稚園等、広くちらしを配るようになっていっている。⇒(コーディネーター)一般の方にアプローチするための方法を工夫してほしい。

確実に取組みを進めておられる。情報を必要とする人に届けることができるよう、工夫して行ってほしい。



・あしたの暮らしとよなか

単なる上映会ではなく、上映の後に問題解決のために参加者で考えていこうという方法をとられているが、回数が増えたときに、ファシリテーターの確保は大丈夫か。→討論をするということではなく、感想を話したい人だけ発言するというトーキングサークルの手法で実施しているので、特にまとめたりすることはしていない。若干のスキルは必要ではあるが、ファシリテーターということではないので、対応できるメンバーは多くいる。



自立をどうするかという点については是非今年度考えていっていただきたい。

・ふたごさんあつまれ

当事者の立場からの支援は非常に重要なことである。行政的なところでも必要な取組みであり、連携して行ってほしい。また、現在はセルフヘルプ的な活動として実施しておられるが、広域的な活動に広げていただきたい。

活動してみて改めて気づいたことなどがあれば。→多胎妊娠で先の見通しがたたない不安を感じた経験から活動を開始した。プレパパママの集まりに参加した方が、今度はサークルにも関心を持って参加してきてくれて、継続して関わってもらえている。

・NPO法人日本タッチカウンセリング協会

セミナーの参加者は保護者が多いのか。→8割近くが保護者。それ以外に、発達障害の支援をされている関係者が参加している。

発達凸凹の支援に関わる市内の他団体との連携は。→まだ連携が取れていないが、子どもたちも中学生世代になり、受験のことなどもあるので、今後、学習支援の団体とつながりをもっていきたい。

新たに児童発達支援センターが開設されたので、そういったところとの連携も検討していただきたい。今後の活動の広がりを期待している。

・NPO法人大阪府北部コミュニティカレッジ

皆さんが楽しんで取り組んでおられる様子が伝わってきた。楽しいから継続できているのだと思う。

多くの参加者があった理由は。→ロコミもあるが、商店街に面していることの特徴を生かして、ちらしを実施場所の前で配布して案内を行い、高齢者の方や子ども連れの方に来ていただくことにつながった。

貴団体のめざす「コミュニティをつくるためのこども食堂」を前面に打ち出しながら、誰でも参加できる敷居の低いコミュニティカフェの運営をしていただき、次の段階としては、支援が必要と思われる方へのサポートについて工夫していっていただきたい。



・NPO法人ウィークタイ

豊中市の実情として、長期化や相談機関にいても解決できない、ということがあるとのことであり、貴団体の活動は、生きる意欲を得るための居場所としての活動であると思う。その先としては何かあるのか。→幸せに豊かに生きる・・・生きていく意欲をずっと持ち続けること。

居場所はたいへん重要。引きこもりと一口にいても、それぞれの方が違う。それぞれの方が、社会に発信でき、力が発揮できるようになれば、地域、社会も変わっていく。

そんなに頑張らなくてもよい、頑張りすぎるとしんどくなる、というのが、これまでもウィークタイさんが言っておられたこと。是非、継続していただくことをお願いしたい。



3. 講評（コーディネーター）

今回、16団体の報告をお聞きし、改めて1年間、素晴らしい活動をされてこられたと感じた。市民活動をされている方にとって、3つ必要なことがあり、1つめは、ミッション。社会のどういった使命を受けて行っているのか。2つめは、マネジメント力。それからもう1つは、コミットメント。この3つのMを常に意識することが、活動の課題解決の一助になる。本日、民間でしかできない活動を多くお聞きした。制度では解決できない課題があり、それは、民間での連携できないと解決できないということを感じた。ただ、活動しているとしんどくなることがあるが、新しいことへのチャレンジの気持ちが突破力になる。しんどくなったときに、さらなるチャレンジをしていただき、多様性をもって活動を広げ、仲間を増やして行っていただきたい。皆様の今後の活動の発展を期待したい。



—閉会—